

副学長就任にあたって



副学長 **笠井 里津子**

私はこの平成29年度4月から副学長を拝命いたしました笠井里津子と申します。すでに執行部として活躍されている学長の具志堅幸司先生や、副学長の松井幸嗣先生から教えを賜りながら、少しでも日体大のさらなる発展に微力ながら寄与したいと考えています。

私の専門はダンス、表現運動の分野になります。今までは、ひたすらどのように学生を導こうか、どうやったら楽しくできるだろうかと、ダンス中心に考えていましたのでこの切り替えは、私にとって大きな変化でした。ダンスの授業は今まで通り精一杯学生と取り組みます。

しかし私は大学の代表として動くことが増えましたので、それにふさわしい言葉づかいや振る舞いができているか、また教職員の手本となっているのだろうか振り返ることが多くなりました。本来ぐうたらな性格ですので最も苦手なところかもしれません。しかし「なりきる・ふりをする・演じる」ことについてはまさにダンス表現で十分に鍛えてきましたので、そこは乗り越えられるのではないかと考えています。

さて実は私も日体大の保護者の一人であります。自分の子どもが生き生きと大学に通っていることが何よりの安心になります。まず通っているのが大前提で、学食でおいしく食事ができているのか、お友達との関係は良好か、勉強は理解できているのか、教育実習はうまく進んでいるのか、就職は希望の方向へ進められているのか。などなど考えられることはいくつもあります。

子どもが選択して日体大に進んだのですから存分に体にかかわることを学んでほしいと思いますし、何かに若さのエネルギーをぶつけられるスポーツや部活動に

かかわってもらえればと思います。

技術を磨き勝利を目指すのも大切ですが、苦楽を長時間ともにした友は何物にも代えがたい一生の関係が築られます。私もこの大学卒業生としてその時代のダンス部の19名は本当に心から話し合える友ができ今もかかわれる幸せを感じています。

最後に、お子さまが勉強や研究のことに集中したいなら図書館へ。プライベートでもなんでも相談にのってもらいたいなら学習支援センターへ。教育実習や教員になりたいなら教職支援センターへ。そして、女性にかかわる問題やお母様の気持ちの代弁なら笠井里津子へ、なんなりとご相談ください。

日体大は教職員一丸となって学生を本気で指導いたします。

保護者の皆様が今までも日体大に気持ちを寄せてくださいましたようにこの先もさらに愛してくださるよう、日体大を鼓舞するよう努めたいと思います。

保護者のみなさまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。



本学の学生支援と就職について



キャリア支援部門事務室 事務長 大山 茂

東京都保護者会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本学の教育、運営に格別のご高配を賜り有難うございます。

早速ですが、本学の就職状況及び学生支援について報告いたします。

今年度は、企業の選考解禁日が昨年同様6月に始まり、企業採用試験に向けて事前準備をすることが大切だと考えておりました。しかし、昨年と比べ各企業の採用試験が早期に行われ、学生の内定報告が6月よりも早い時期に多くなりました。今後もこの傾向は続くと考えられます。

まず今年度の就職状況について報告いたします。公立学校教員採用試験は2次試験まで終了し、今年度の現役合格者数(平成29年11月23日現在)は小学校36名(期限付き合格者6名)、中学・高等学校25名(期限付き合格者5名)、養護教諭・特別支援学校7名(期限付き合格者2名)と昨年を上回る結果になっています。公務員試験結果は、例年に比べ大きな変化はなく、警察、消防、法務省(刑務官)、防衛省(自衛官)、海上保安庁、市役所(行政・保育)などから合格が出ています。

次に企業就職については、例年通り体育・スポーツの分野に限らず、メーカー、卸・商社、小売、サービス等、幅広い業界から内定を獲得しています。人事担当者との情報交換会でも、変わらず本学学生に期待している企業は多く、年間を通して求人票を頂いている状態です。しかし、面接を担当した人事担当者からは、以下のような意見も頂戴しています。「本人が何をしたいのかわからない」「同業他社との違いについて理解していない」などです。上記課題に対して「なぜ働くのか」、「入社して何がしたいのか」など内定をもらうことをゴールにせず、自身のキャリアプランを考えておくことが求められます。特に近年、コミュニケーション能力が必要だと言われていますが、自身の考えや思いをどのように相手に伝えることができるかが重要視されていると感じております。素晴らしい経験をしているにも拘わらず、発信力・意志力の弱い学生が多く見受けられます。そのような学生には、面接練習を始め個別での支援を行っ

ています。

我々は学生支援に際し、学生に伝えることがあります。それは、「一人ひとりが違う」ということです。つまり、100人いれば100通りの就職活動があり、100通りの就職支援があることを念頭に置いて行っております。加えて、学生に対して「答えを言うのではなく、答えを自身でつけるきっかけ」を与えたく支援しております。そして、学生が就職活動を通して過去を振り返り、将来に向けて真剣に考えさせる支援を引き続き行って参ります。

近年では、大卒者が就職後3年で3割以上離職していると言われております。勿論、ブラック企業等で早期退職が望まれる所もありますが、学校現場に代表されるように、長時間労働や残業代がつかない職場でもやりがいがあれば離職には繋がっていません。入社後のミスマッチを防ぐためにも、学生自身がインターンシップ(職場体験)やOBOG訪問を積極的に行い、仕事内容や職場の雰囲気も感じ取ることが大切となってきます。

社会人になり、仕事の基礎、基本を身につけ失敗を繰り返しながら成長していくものです。最初は右も左もわからないことが多く、辛いことの繰り返しかも知れません。しかし、3年間は学びの期間と捉え、色々な事に挑戦して欲しいと思います。本学の卒業生は素直で、明るく、挨拶ができ、職場の先輩達からの期待値も非常に高いです。しっかりと土台を作る事で、その後は無限に成長していきます。早くに役職に就く先輩や海外で活躍している先輩達も大勢います。

就職は、人生の選択です。自身の人生の選択について3年生、4年生になってから始めなければいけないというルールはありません。入学直後からでも積極的にキャリア支援部門や教職支援センターを利用してもらいたいと考えています。教職員の中には、キャリアカウンセラー資格を所持する職員、本学教員、更に元学校教員・校長経験者が在籍し、支援を行います。是非ご子息・ご令嬢に『キャリア支援部門や教職支援センターを利用する』『行動する』事をお話いただければ幸いです。

東京都保護者会の皆様にはその後もご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素より大学、そして同窓会に対しご支援を賜っておりますことに改めて深く感謝申し上げます。

私が同窓会長を仰せ付かって4年が過ぎようとしています。この間に母校は勢いよく発展し続けて今日を迎えています。私は、この背景には法人が掲げた「ワンファミリー」のスローガンに大学を取り巻くすべてのステークホルダーが理解を示し、協力体制が整ったことが挙げられると確信しています。大変有り難いことです。

しかしながら、同窓会はそのような状況にあっても今なお「同窓会離れ」という大きな問題を抱えています。企業人が圧倒的に多い若手同窓生からは「同窓会に魅力を感じない」という声も聞こえてきます。そうした中で、この4年間を通じて問題解決のための基本的ノウハウを同窓会役員間で共有できたのではないかと考えています。残る課題は実行に尽きます。

私たち同窓会本部は、その実行力を存分發揮するには役員の若返りと教職経験者に偏りのある役員組織の抜本

的な改革が必要であると考えました。更に、迅速な行動が必要であると考え、先ず本部組織及び役員人事の抜本的改革を断行しました。

しかし、それだけでは不十分です。保護者会皆様のご協力なくしてこの問題は解決できません。特に、関東周辺に在住する卒業生の実態把握が急務です。保護者会の組織は同窓会とは異なりますが、少なくとも現保護者会会員の皆様には、この同窓会が当面する問題認識を共有して頂き、末永くご協力頂きたくお願い申し上げたく存じます。幸いにも、この数年間で保護者会と同窓会は「共存共栄」の環境が整いました。母校のために双方による更なる協同が必要であると存じます。

東京オリンピック・パラリンピック大会は2年後に迫りました。母校はもとより同窓会にとりましてもこの追い風に乗って同窓会の活性化に弾みをかけて参る所存です。その意味におきましても地元東京都保護者会会員皆様のご理解とご協力を重ねてお願い致します。

結びに、東京都保護者会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。

日本体育大学東京都同窓会

日本体育大学 東京都同窓会 会長 高田 幸一

余寒の候、ますますご清栄のことと存じます。平素より東京都保護者会の皆様におかれましては、ご支援ご協力を賜り心より感謝しております。

まず今年度は、初めての試みとして総会の同日開催を実施し、講演会等を合同で行い無事成功裏に終えることができましたこと、御礼申し上げます。

さて、来年度から日本体育大学は、5学部編成となり約7,000名を有する大学になります。一昨年度入学生より準会員として迎えることができ、東京都同窓会活動の主な目的は、(1) 会員相互の親睦 (2) 学生への支援が挙げられます。特に学生支援は、①教職を目指す学生に対し教育実習の指導、②教員採用試験に向けての講習、③就職活動に対しての研修会開催等があります。

その中でも、教育実習指導や教員採用試験対策等については、従来の中学校・高等学校教員免許に加え、小学校教員免許を志望する学生へも指導・研修等を実施しております。さらに、教員採用試験の第1次対策をはじめ、第2次対策は、学生支援センターとともに、「日体魂」を持つ教員を目指す学生の指導（面接・集団討議等を含

め）、また、「日体教学舎」では2、3年生を対象に教員、社会人としても幅広い識見を持つ日体生の育成に取り組んでいます。是非ご子息様・ご息女様にも積極的に参加いただけますと幸いです。

なお、今後も進路多様化に対応すべく、広報活動の一環として、昨年ホームページを立ち上げました。学生及び同窓生、保護者会へ定期的に事業や企画の情報を提供していきます。それにより会員の理解と参加を促し、同窓会会員の拡大に全力を注いでいます。平成30年度には同窓会活動の平成史なるものを編集しようと計画しています。①教員名簿の整理 ②企業で活動している同窓の情報収集を行う予定です。そして企業の方々の活躍する場の情報を提供し就職活動を伸展させる決意です。

東京都同窓会は、これからも学生支援に尽力し、今までの人的財産と知的財産を活かすべく新たな企画・事業に展開を行います。将来を共に展望、最善を尽し学生のために全力で取り組む所存です。今後とも保護者会の皆様におかれましてはご理解ご協力をお願い致します。

日差しのある春の気配を感じるようになりました。

東京都保護者会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本会の活動に対し、深いご理解と多くのご協力を賜り誠にありがとうございます。

昭和54年に設立致しました本会も46都府県と北海道の道央、道東の2支部を合わせた全国に48支部を有し、その活動も年々活発になっています。その中でも東京都には日体大全在生6,910名の約23%にあたる1,558名が在籍し、全国でも在生が一番多い都市であると同時に保護者の数も全国一番であります。

本年度は、東京都保護者会田村富子会長を中心に役員の皆様が一致協力してキャンパス見学会、キャリア支援講演会をはじめとする各行事の運営、開催を積極的かつ盛大に執り行っていただきましたこと、本部保護者会会長として心から感謝申し上げます。

2016リオのオリンピック・パラリンピックでは多くの日体大生と卒業生が輝かしい成績を残しました。来る2020東京オリンピック・パラリンピックにおいても出場選手の更なる飛躍を期待し、選手のみならず監督、コーチ、スタッフ、

ボランティアそして熱きサポーターとして日体大関係者が関わっていることでしょう。まさに東京都保護者会の皆様はそういった意味では歴史を刻む世界のスポーツ選手憧れの場のメインサポーターとして輝かしい歴史の1ページを肌で感じ、スポーツを通じて親も子も一体となって日体大ファミリーを応援して頂きたいと思えます。

縁あってこの日体大にご子息、ご息女が入学し、そして日体大生の保護者として子供を見守ることになった訳ですが、ご子息、ご息女がこの素晴らしい学び舎で豊富な知識とこれからの長い人生を乗り切るためのタフな身体と精神力を培い、社会に船出する準備をしている今だからこそ、私達保護者も今できる精一杯の応援をしていきたいと思います。他の大学では決して経験することのできない、かけがえのない勉強と体験を今、必死に頑張っています。きっと人生の糧となることでしょう。

そう信じています。

最後になりましたが、日本体育大学東京都保護者会の益々の発展と会員の皆様のご健康と学生の皆さんの健やかな成長を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

関東ブロック代表者会報告

東京都保護者会 副会長 小林 理津子



毎年各支部で開催される関東ブロック代表者会が10月7日(土)に神奈川県横浜市で開催されました。

大学からは、松井幸嗣副学長をお迎えして大学の近況をお話し頂き、その後質疑応答と意見交換が行われ有意義な時間を共有することができました。

会場を手配してくださった神奈川県の役員の皆様はこの場をお借りし心より感謝をし、御礼申し上げます。

支部会長連絡協議会報告

東京都保護者会 会長 田村 富子

11月4日(土) 世田谷キャンパスにて開催されました。

全都道府県の保護者会会長が集まり、本部役員、大学教職員の方々から大学の近況報告、保護者会の近況報告などがありました。

大学では2018年に新しい学部が開設されるなどオリンピック・パラリンピックに向けて、また一段と日体大生の活躍を期待し応援していきたいです。屋外実習のDVDもみることができ、実習のことも良くわかり感動した1日でした。



キャンパス見学会・キャリア支援講演会

小林 千春 (1年保護者)

去る10月21日(土)、世田谷キャンパスに於いて、キャンパス見学会・キャリア支援講演会が行われました。雨の降る中でしたが、137名の参加者と、案内役を引き受けてくれた5名の応援部員とで見学会がスタートしました。

教育研究棟から出発し、コンピューター教室、図書館へと移動。日体大の図書館には約50万冊の蔵書があるそうです。地下へ降りると記念講堂があり、その日はダンスサークル(ヒップホップ)が練習していました。健康管理センターに移動。そこでは学生の健康と安全を確保するために様々な業務を行っているそうです。

グラウンドではアメリカンフットボール部、アルティメット部が、グラウンドの周りではボートの練習をしている学生、ダブルダッチの練習をしている学生達。どこを見ても迫力のある光景でした。

スポーツ棟に移動し、歴代のオリンピック選手の展示を右側に見ながら、左側にはトレーニングセンターがあ

り多くの日体大生が身体を鍛えている姿に日体大の醍醐味を感じました。メインアリーナでは男子バレーボール部、ハンドボール部が練習していて、剣道場、柔道場、多目的プール、相撲場を見学しました。

記念講堂では、日体幼稚園の子供たちが運動会をしておりとても賑やかでした。

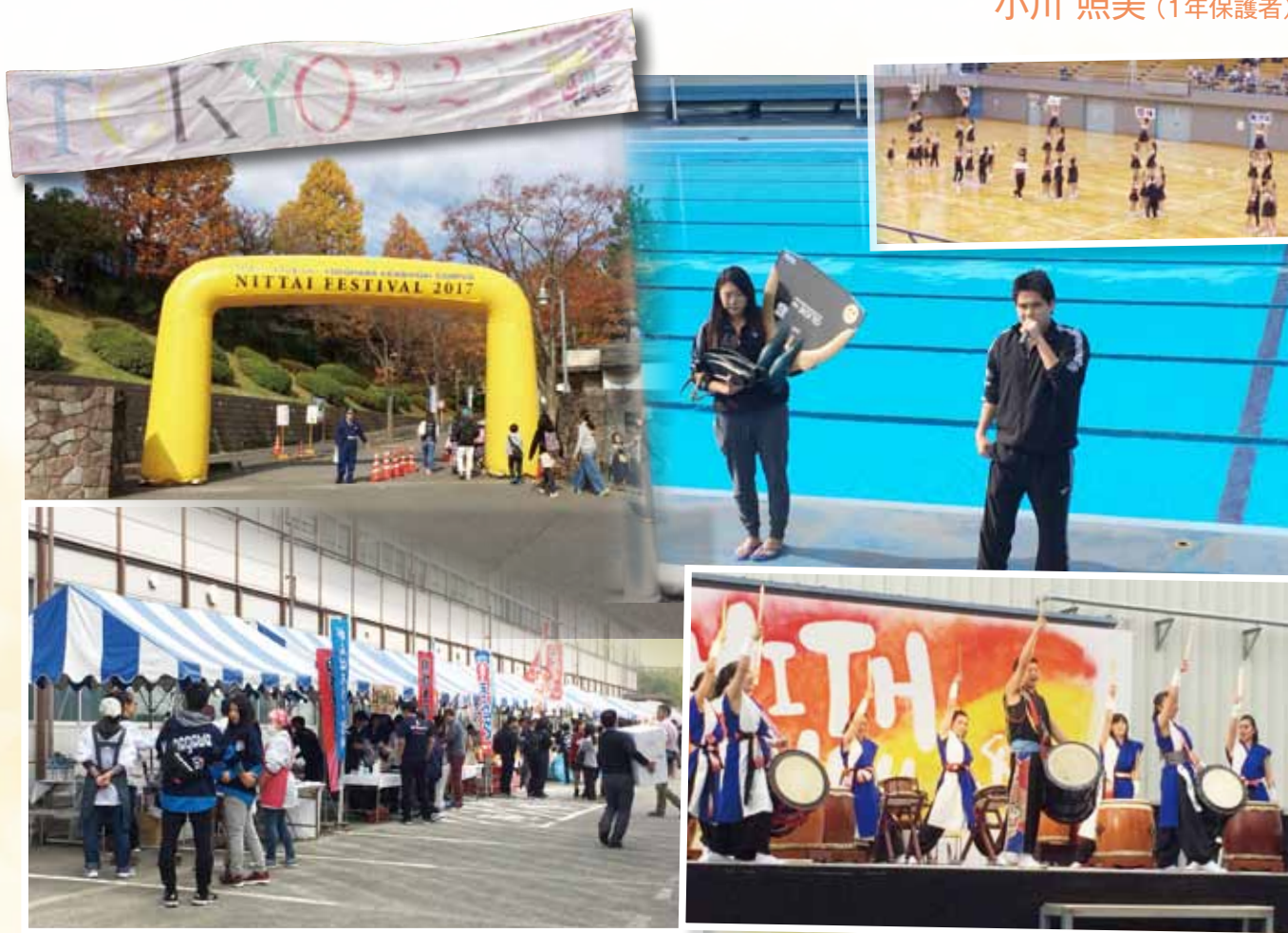
キャンパス見学会の最後は、日体大生が利用している食堂で学生一番人気メニューの唐揚げ丼を食べる体験でした。美味しかったです。

見学会終了後、講演会が行われ、武道教育学科准教授齋藤雅英先生から保護者のための学生のメンタルケアについて教育心理学の方面よりお話を、キャリア支援部門から長井小百合さんによる「やりたい職業に就く、なりたい自分になる」というテーマでお話をいただき、参加者にとって大変有意義な時間となったキャンパス見学会・キャリア支援講演会でした。



第51回 日体大フェスティバル2017

小川 照美 (1年保護者)



11月3日(金)～5日(日) 健志台キャンパスで行われました。今年のテーマは、「WITH YOU ～新時代の幕明け」でした。来場者一人ひとりが一緒に参加し創り上げるという想いがあるそうです。他大学との違いは体育祭と学園祭を合わせた祭典ということだそうです。広大な敷地のあらゆる所で公開練習やデモンストレーションが行われており、とても興味深く一流の演技を見るのを楽しみにしていました。

最初に見たフィンスイミングは丁寧な説明があり50メートルを泳ぐ速さに驚きました。ミニ実演会では13団体の発表があり11月にある体育研究発表実演会の雰囲気が味わえました。どの団体も迫力があり素晴らしいのです。特に体操部は、ほとんどの部員が初心者で入部の後バック転や器械体操、集団の美しさを練習されたと聞き感心しました。

深沢寮のエッサッサは上半身裸姿での演技のせいか入場の時に観客から笑い声が上がりましたが、一人ひとりが一生懸命であり真剣な姿には観客も思わず見入ってしまいました。それは人の心を打つ演技だったと思います。

次に硬式野球部の公開試合に行きました。首都大学リーグ優勝。関東大会優勝。明治神宮野球大会出場決定とい

う嬉しいニュースがありました。そして当日は、桐蔭横浜大学と試合を行いました。観戦者も多く選手達も伸び伸びとプレーをしている様子でした。明治神宮大会でも力を発揮出来るよう願っています。

体操競技部でも練習が行われており白井健三選手も練習中ということで、静かに見ていた見学者たちからも心の興奮が伝わってきました。

最後は、お笑い芸人ライブです。司会の学生さんの的確な進行と面白いコントや漫才に子どもから大人まで大変笑うことができました。「滑りやすい階段」は偶然なのでしょうが見事に盛り上がり企画者の思いが階段に伝わったのではないのでしょうか。

日体大フェスは、子どもたちの参加が多いので毎年楽しみにされているのではないかと感じました。中には日体Tシャツを着ている小学生がいて購買部の品揃えの良さを感じます。また体力測定や学部の特色ある催し物もたくさんありました。初めての参加で保護者として見学に行くつもりが色々勉強になったり感動したり日頃の成果を拝見できてとても良い一日になりました。

第55回 体育研究発表実演会

小山 暢子 (1年保護者)



「エッサッサの日体大だよね!」「集団行動が見られるの?うらやましい!」「伝統の日体大で学べるんだね!」何人もの友人に言われ、ワクワクは娘の日体大への入学が決まった時から始まっていました。

そして11月15日(水)、ついに楽しみにしていた「第55回 体育研究発表実演会」の日がやってきたのです。会場となった横浜アリーナは、開場16時30分のずっと前から多くの人が集まって、熱気と活気でいっぱいとなっていました。

今年のテーマは「共生」、16の実技種目は、厳かな「伝統芸能」、美しい「新体操」や「ダンス」、迫力の「武道」、元気で花のある「チアリーダー」、力強い「体操」など、どれも日々の練習と努力の成果が存分に発揮され、時間を忘れ見入り拍手を送りました。また、「救急医療」の実演には人の生命を救う頼もしさを感じました。

オリンピック・パラリンピックの有力候補選手の紹介

やパラリンピックの演技紹介も行われ、今年のテーマ「共生」を強くイメージすることのできる発表実演会となりました。スポーツを通じ、共に支えあい、高めあい、能力を発揮している姿に驚嘆しました。

楽しみにしていた「集団行動」は、号令がなくても乱れずに泳ぐ海の魚の群れを目指した新たな取り組みでした。

そして「エッサッサ」。一人ひとりが力を込めて応援する姿には、理屈抜きでその肉体と精神の鍛錬に圧巻されました。

フィナーレは出演者全員でのダンスと歌、会場はやりきった笑顔で埋め尽くされ、スポーツを通じて結ばれた仲間達の友情でいっぱいになりました。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今後の活躍も楽しみにしています。天空の月に向かって咆哮するシンボルマスコットである獅子のように「吼えろ!日体生!」

第49回 体操部 演技発表会

平井 扶美子 (1年保護者)

12月17日(日) 日本体育大学世田谷キャンパス メインアリーナにて体操部の第49回演技発表会が行われました。

感動と歓声、興奮、迫力のあつという間の2時間でした。息子が中学の頃から入りたく憧れていた日体大に入学することができ、さらに体操部に入部し今日の発表会を楽しみにしていました。

息子の小さい頃からのファンでした佐藤弘道お兄さんの総合司会も楽しみでした。会場いっぱいの観客で立ち見も出るほどの熱気で、すべての演技に引き込まれました。ゲストの国士舘大学男子新体操部の美しい演技。文化学園大学のゴージャスな手作り衣装の「西遊記」。筑波大学体操部の大きなGボールを使った演技など他のゲストの方々のいろいろな分野の演技と日体大体操部が交互に挟んだ構成で、テンポ良く進んで行きました。

そして今年も魅せます!体操部OBたちによる「お〜んど・ボーイズ」弘道お兄さんも参加のパフォーマンスも楽しく、また会場の観客皆が立ち上がり手を繋いでの「みんなで体

操」も盛り上がりました。

メインの日体大体操部の演技も団体や男子、女子など色々取り揃え、音楽に合わせてのリズミカルなものや技を交えての美しく迫力のある演技の数々でした。

息子を見つけ目で追いながらも団体が揃った演技は感動です。

体操経験のない部員がほとんどだと司会の方も言っていました。1年生でも、これだけの演技が出来る様になったのは先輩方や指導の先生方のおかげと感謝いたします。そして部員の皆さんの毎日の練習の努力の成果だと思います。

これからも発表の場がいろいろありますが、怪我などに気をつけて部員全員のチームワークで技を磨き、体操の素晴らしさを子ども達や世界中の人々に発信し続けてください。

感動をありがとうございました。熱いパワー、エネルギーをいただきました。来年も楽しみにしています。



第94回 箱根駅伝

工藤 かほる (1年保護者)



1月2日(火) レース1時間前から、各大学の応援合戦がスタートしました。応援団・チア・ブラスバンドの熱い想いが、観戦する我々にも強く伝わってきて『日体大を応援するぞ!』という気持ちが高まってきました。

午前8時、東京・大手町の読売新聞社前から箱根・芦ノ湖を2日間で往復する10区間217.1kmの戦いが始まりました。日体大応援団の前を駆け抜けていった吉田選手(4年)を含めすべての選手へ、沿道から大きな声援がかけられます。噂に違わず“あっ”という間の通過でしたが、繰り返し演奏された応援曲や渾身のパフォーマンスの残像が、見送った選手の背中との映像と共に記憶に刻まれました。その後、めまぐるしく変わるレースの動向を気にしつつ箱根へ移動。

芦ノ湖湖畔では、暖かい日差しが降り注ぎ、身動きできない程の観衆が選手たちの到着を待っていました。青い空を背に、5区の小町選手(4年)の姿が現れると、安堵の気持ちも相まって、応援に一層力が入りました。5人抜き区間5位という力走で、往路7位でゴール!! 往路

報告会で、具志堅学長が選手たちに向けた「苦しいときが踏ん張り時だ。」というお言葉が印象的でした。

1月3日(水) 昨日に続く快晴の下、午前8時に復路がスタートしました。レースが好転したのは、7区・住田選手(4年)からです。区間2位の走りで順位を上げていく様子に高揚感を覚えました。10区・中川選手(2年)が3位の早稲田に迫る勢いで駆け抜けていった勇姿に感動したのは私だけでしょうか。

総合4位。日体大70回連続出場という節目に記憶に残る戦いぶりを見せてくれました。

「日体大にはエースがいない。」と耳にする機会もありましたが“個々のレベルは高く、安定している”と示してくれた成績でした。選手の皆さん、お疲れ様でした。来年の活躍にも期待しています。

最後になりましたが、この箱根駅伝を支えられた関係者すべての方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ブレイクダンスは、ニューヨークのギャングが銃撃戦の代わりにダンスで決着をつけた事が起源とされています。

アウトローなイメージがあるブレイクダンスですが、今では世界中の若者に広がり、世界大会も行われています。

息子は、中学時代に、高校の文化祭でブレイクダンスに魅了され、自分も同じステージに立ちたいという思いで受験勉強に打ち込み、3年間ブレイクダンス一筋で高校生活を過ごしました。

彼は、高校教師になり、高校生にブレイクダンスを広めたいという夢をもっています。大学受験時も各大学のダンス部を比較し、ここなら自分の夢が叶えられると確信し日体大を選択しました。

今は、ヒップホップ同好会に所属しながら教師を目指しています。

日本はブレイクダンスの世界大会の常勝国ですが、まだまだ一般の方々には浸透していません。

教師になり、ブレイクダンスを通じて輝ける若者を増やすという夢に向かって4年間頑張ってほしいと思います。



ライフセービング部

庄司 裕美 (2年保護者)

皆さんは「ライフセービング」と聞いて、何を思い浮かべますか？大抵の人は、夏の海水浴場の監視、パトロール、救難活動を思い浮かべるのではないのでしょうか。もちろんそれは彼ら彼女らにとって大きな活動のひとつで



すが、競技としても大きな大会が年に4回あり、その中でも9月に行われた「全日本学生選手権大会」においては、女子優勝！男子は3位という素晴らしい結果を残しています。

総勢77名の部員たちは、オフシーズンの今、キャンパスやビーチ（江の島）で日々、他の部活同様、朝から練習を繰り返して行っています。先日、江の島での練習を見てきました。幸い小春日和でそれほど寒くはないものの、海水は冷たい海でのトレーニングでしたが、部員たちの明るくしかし真剣な姿に清々しい気持ちになり、今後の活動に心からのエールをおくりました。

応援団チアリーダー部VORTEX

岸野 容子 (3年保護者)

応援団チアリーダー部は、野球、アメフトなどの試合応援はもちろん、箱根駅伝では大手町組と箱根組に分かれて応援もします。そこで披露するマーチは、入部後すぐに覚え、各部の試合応援に備えます。その準備万端な応援練習をするからこそ、勝敗を一緒に笑い、泣く、チアリーダーの姿があるのです。そんな彼女ら彼らも、応援から競技の主役へとなり、関東大会、ジャパンカップ、全日本学生選手権大会を戦います。

チアリーディングとは『いかに観客を魅了し、引き付ける事が出来るか』を競うスポーツです。日体大実演会などでは、一見、華やかなユニフォームを着て、踊っているだけかのように思われがちですが、タンブリングやピラミッドなどの想像をはるかに越えるハードな技をこなす競技なのです。

ぶつかり合い、口から出血していても笑顔で最後まで演

技を続ける選手。肩を脱臼しても決してトップを落とさない気迫の選手。何度も立ち上がろうとしても、足を痛めて立てない選手。大会ではそんな光景を幾度か見たことがあり、チアにかける思いが伝わり、観客は涙します。



もちろん、厳しい練習の成果がそこに実り、ノーミスの演技をしたチームは、それはそれは光り輝き、会場中から終わらない拍手を浴びることになるのです。

大会の青マットの上で、2分30秒。ノーミスの演技を目標に、日々『チーム一丸となって』頑張っているチアリーダー達を、皆さん、ぜひ応援して下さい！

「陸上を続けたい。」それが息子の大学選択の最大の理由でした。少し足踏みする事がありました。その意志は固く無事日体大へ入学しました。そして、在籍している保健医療学部整復医療学科から陸上競技部の活動を続けていくのは難しいと言われましたが入部し、同時期に入部した同学部の仲間達が退部していく中、今は一人になってしまいましたが続けています。10年間続けてきた陸上、中学・高校の時に出場してきた様々な大会の決勝で競い合った仲間が今は同じ部員となっています。お互いに切磋琢磨し、友人と趣味に対して語り、笑い、思うような記録を残す事が出来ない事もありましたが、有意義な部活動になっていた事と思います。ご指導いただきました先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

息子は、保健医療学部の一期生です。そのこともあり、大学のその時々情報を得ることができるのではと思い保

護者会役員として参加させていただきました。その中で、日体大の卒業生の保護者の方にお話しを伺う事ができたり、また相談させていただく事ができたりと大変助かりました。本当にありがとうございました。

ただ一つ残念に思うのは、新設学部の為、十分な協議をされ準備された事と思いますが、シミュレーションが機能されていないのか、カリキュラムの説明、そして、その時点での必須条件の連絡が後手後手になっていたように感じます。大学には次年度がありますが、息子達には次年度はありません。今この時が全てです。この点を考慮いただき、二期生、三期生そして四期生に余裕を持って勉学に勤しみ、考える時間を与えていただきたいと思います。

日体大保健医療学部整復学科から多数の柔道整復師合格者が出るよう期待しています。

日体大4年間

東京都保護者会 会長 田村 富子 (4年保護者)

4年前に息子が日体大に入学して、なんとなく総会に参加して、懇親会に出席したらそのまま保護者会に参加。まさか大学に保護者会・役員会があるとは思っていませんでした。

親となってまたここでいろいろな出会いがあったこと、他の保護者の方々と仲良くなり4年間を私も息子と一緒に楽しめたことは今になって感謝しています。

学年学部を問わず部活の応援に行ったり、一人ではやらなかったことを役員の方々と楽しませてもらった4年間でした。

箱根駅伝は大手町で応援を見て直ぐに箱根まで移動して観戦したり、野球、ダンス、実演会の応援に参加などたくさんの経験をさせていただきました。

今年度も東京都保護者会役員は大人数なので、みんなで参加、また一人ひとりが役員でよかったと思ってもらえるよう楽しく、今後の保護者会活動をよりよく発展できるように意見交換を大事に活動しています。残りの任期も楽しくやり切って思い出に残る1年間にしていきたいです。大人になってからの出会い、この日体大に息子が入学したことで充実した4年間を過ごせたことを本当に感謝しています。

今後の東京都保護者会の活躍を願っております。ありがとうございました。

編集後記

平昌冬季オリンピック・パラリンピックを迎えた今年、東京オリンピック・パラリンピックまでは残すところ2年となりました。56年ぶりの東京。こんな機会に恵まれる事は滅多にありません。

多くのメダリストを輩出して来た日体大は、色々な形で携わり担っていく事でしょう。スポーツマンとして正々堂々と全力を尽くして競技を行う態度や健全な身体を育てるのは、本人とご指導頂く先生方のお力添えだと思えます。

そして1番の応援団は親であり保護者だと思っております。一人でも多くの皆様が日体大の応援団となり学生を支えてあげられれば、より一層の飛躍があると信じています。

「今こそ皆様の応援が必要です。」

お陰様で無事に広報誌の発行となりました。この広報誌に携わることが出来て、とても楽しかったです。最後に寄稿して頂きました皆様、携わった頂いた皆様に深く御礼申し上げます。

広報委員 澤栗 (記)